

南会津 のうりんニュース



今月の写真：「ポスターコンクール受賞作品」

米飯給食拡大推進ポスターコンクールが去る9月に行われ、合計4,816点の中から、小学生高学年の部で南郷第一小学校の仲丸香帆さん(写真左)、また中学生の部で館岩中学の赤松明李さん(写真右)の作品が入賞しました。
おめでとうございます!!

今月の内容：

- 今月のトピックス
 - ・和泉田営農改善組合が東北農政局長賞を受賞!!
 - ・こだわり南会津の幸再発見セミナーを開催!!
 - ・田島二小「田んぼの学校」収穫祭
 - ・今年も南会津の郷土料理作りに挑戦!
 - ・水田農業の維持・発展に向けて!
- この人を知りたい
 - 平野 健一さん(南会津町田島地域)
- 農林事務所からお知らせ
- 今月のコラム
- 農林事務所からお知らせ

平成19年12月10日発行 福島県南会津農林事務所

今月のトピックス

和泉田営農改善組合が 東北農政局長賞を受賞!!

東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者表彰式



平成19年度東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者表彰式が去る11月19日に仙台市のパレス宮城野において開催されました。

この表彰は、土地改良事業を契機として土地基盤、土地改良施設を有効に活用しつつ創意工夫を凝らした生産対策、販売対策に積極的に取り組み安定した営農の定着が進んでいる事例について表彰を行い、その成果を広く普及することを目的に実施されています。

今回は東北管内で6団体が表彰され、うち福島県では南会津町南郷地域の和泉田営農改善組合が表彰の榮に浴しました。

表彰式ではまず山根東北農政局長から主催者を代

表してあいさつがあり、中野農村計画部長の審査講評及び表彰事例の紹介があった後、各代表に表彰状が授与され、和泉田営農改善組合は斎藤組合長が登壇し山根局長より表彰状が手交されました。

その後、活動報告と意見交換会が行われ、品目横断的経営安定対策については「施策の名称がわかりにくい」等の意見のほか、活発な議論が交わされ盛会のうちに終了となりました。

(農業普及部、農村整備部)

こだわり南会津の幸再発見セミナーを 開催!!

米、会津地鶏、そばの実、大豆などといった、こだわり農産物の地産地消及び観光客らへ提供するメニューの開発・提案を目的に、去る11月26日南会津町御蔵入交流館において開催しました。

女性農業者などの生産者、旅館・民宿・ペンションなどの実需者、消費者ら30名が参加。昨年に引き続き、料理研究家の畑中成純所長(畑中料理研究所・郡山市)を講師に迎え、調理実習や意見交換を行いました。



大人気!「お米のおいしい炊き方」

今回は、有機栽培に取り組む只見町の中野大徳氏が生産したコシヒカリの試食や、福島県のそば新品種「会津のかおり」の実を用いたデザート(ぜんざい

(2ページに続く)

(1ページから続く)

など)、地鶏の手羽先や卵を使った料理が紹介されました。畑中先生の斬新なアイデアとユーモアあふれる熱血指導に、参加者は有機栽培と地産地消への理解を深めるとともに、新たなメニューへ挑戦する意欲が感じられました。



無農薬栽培米の食味比較

(地域農林企画室、農業普及部)

田島二小「田んぼの学校」収穫祭

去る10月28日、南会津町立田島第二小学校において、収穫祭及び体験発表会が行われました。

収穫祭では親子が協力してついた餅を、つゆ、あんこ、きなこ、納豆などにかからめて、青空の下、全校児童・保護者・先生が輪となり楽しく食べました。



体験発表会では五つの班に分かれて、これまでの活動を振り返り、自分たちで感じとったことをしっかりと報告することができました。感想の中には、「米づくりを続けてみたい」との頼もしい声も聞かれ、この中から将来の担い手が育ってくれることを期待しています。



(下)田車を使つての体験発表会

(農村整備部)

今年も南会津の郷土料理作りに挑戦!

去る11月10日及び18日の2日間、南会津町南郷ふれあいセンターにおいて、「ふくしま学習空間・夢まなびとオリオン講座(後期)『南会津の地人学IV』」と題し、郷土料理講座を開催しました。

この講座は、県民を対象に、南会津教育事務所と南会津農林事務所との共催により、南会津地方の郷土食をとおして地域文化や豊かな食生活、地産地消などを学ぶため、毎年開催しているものです。



じゅうねん味噌作り

11月10日の「館岩の郷土料理」では、南会津町館岩地域の星キミエさん、星トキエさん、大山澄子さん、大山悦子さんを講師に「ばんでいもち・赤カブ漬・ことじ」を、18日の「檜枝岐 山人(やもうど)料理」では、檜枝岐村の星一昭さん、平野絹世さん、星悦子さんを講師に「やきもち・はっとう・つめっこ」作りに挑戦。2回で延べ39名が参加しました。

料理の名前の由来を聞き、地域のベテラン講師の卓越した技術を目の当たりにして感心しつつ、参加者全員で調理・試食をしました。



「はっとう」作り

参加者からは、生でも甘く、漬けると鮮やかな色に染まる「赤カブ漬」や、そば粉と餅粉、ジュウネン・砂糖・塩から作る「はっとう」などに、作る楽しさを感じながら、「家庭でも挑戦してみよう」という声が聞かれ、「次回も参加したい!」と大変好評でした。

この講座が、地域の良さを見直す良いきっかけとなったことと思います。

(地域農林企画室)

水田農業の維持・発展に向けて!

県内食料自給率100%の達成!をスローガンに掲げ、平成16年度より推進されてきた水田農業改革アクションプログラムが本年度で終期を迎えます。これに伴い、11月7日に「南会津地方水田農業改革推進本部会議」を開催し、これまでの実績と残された課題について検討を行いました。

南会津地域におけるプログラムのうち、「多様な担い手の育成」については認定農業者の育成で一定の成果が得られました。一方、「売れる米づくり・地域振興作物の生産拡大」については目標達成に至ら

ず、今後とも継続した取り組みが必要となりました。

県では、このような各地域に残された課題と水田農業を取り巻く情勢の変化を踏まえ、来年度からのアクションプログラム次期対策の策定に向けて検討を行っています。会議ではこの次期対策の骨子についても紹介され、今後の地域水田農業の維持・発展に向けて残された課題を承継し、地域実情に即した振興策を県・関係団体が一体となって推進していくことを確認しました。

今後とも、皆様のご協力をお願いいたします。

(農業振興部)

この人を知りたい

南会津の森林と共に

(南会津町田島地域 平野 健一さん)

今回、皆さんに御紹介するのは、超人気のインタープリター：「もりの案内人」の平野健一さんです。平野さんは南会津町針生生まれ、同町内に奥さん、息子さんと3人で暮らしています。

平成12年に「福島県もりの案内人」の認定を受け、自然観察や環境教育活動など郡内外を問わず活躍されています。

昨年度、農業協同組合職員を退職し、その後、環境教育と自然の大切さをテーマに環境先進国ドイツへ地球環境市民育成事業海外派遣の団長として参加され、先進国の環境教育や地域環境保全の考え方などを学んできたということです。

最近、森林セラピー(森林療法)という言葉を目にしますが、こうした森林セラピーのガイドもされています。【写真】

森林のセラピー効果は、フィールド(自然環境)の条件が影響するといわれていますが、もっと大切なことは、ガイド(インタープリター)の感性、優しさや情熱です。従来、人間は少なからず自然を破壊し、あるいは自然に脅えながら生活を続けてきました。そうした自然と人間の関わり方を忠実に伝えていただける方が平野さんです。

インタープリターとして御本人が大切にしてい



ガイドを行う平野健一さん

る事は、「森林を見る心、森林を知る心、森林を守る心」だそうです。子供たちの感性を大切にしながら、良く自然のことを伝えて大切に作る心の醸成が平野さんの環境教育の基本にあるようです。

さて、平野さんの趣味の一つに「蜘蛛の生態調査」があります。この成果については農産物の生きた農薬(益虫)として「農業共済新聞」の紙上に近々紹介される予定です。こんな熱心で心優しい平野さんですから、小学校の総合学習をはじめ、ファミリー緑の教室や森林セラピーのツアーなど忙しい毎日を過ごされています。多忙となる一要因はすぐに様々なお願いをしてしまう森林林業部にもあるのかも知れません。

(森林林業部)

農林事務所からお知らせ

森林所有者の皆様へ 保安林標識設置についてのお知らせ

日頃より、保安林の管理や治山事業の実施について、ご理解とご協力を頂きありがとうございます。保安林については、その位置や重要性を知って頂くために、従来より黄色の標識を設置してきております。

今回、農林事務所では地元の木材を使用した“保安林標識”を作成し、更に保安林の周知を図っていきたくて考えております。皆様の所有林において見かけましたら、その趣旨をご理解いただきまして、ご協力のほどよろしくお願い致します。

(森林林業部)



- 南会津産のスギ材を使用し、設置箇所は道路(歩道)脇の立木の枝に麻ひもで結びつけます。
- 全体に薄黄色の塗料で着色し、林内における視認性を確保しました。
- 薄黄色の塗料は、植物性の自然塗料を使用しております。
- 設置後、枝が折れて標識が地面に落下しても、材質が木材なので自然に腐朽します。

温暖化

△ 津若松駅から田島駅まで片道約1時間の列車通勤の時間を居眠りと読書に当てている。最近では気象関係と今話題の地球温暖化ものを読むことが多い。

地球温暖化問題は今年のノーベル平和賞に元アメリカ副大統領のゴア氏と、温暖化問題に関する報告書を出している国連機関のIPCCが受賞し話題になった。関心を持っている方も多いと思う。IPCCの報告書は環境省のホームページに載っているのでインターネットでみられる。環境省がまとめた同報告書の概要によると日本では100年後に平均気温が2～3℃上昇し(条件によってはそれ以上)、降水量が増え、異常気象が増え、米の収量が特に西日本で大幅に減少する可能性があるとして予測されている。この報告書は多くの学者が参加し研究結果をとりまとめたもので、学問的に十分検討されているだけに信頼性が高いと思われる。

温暖化問題に関連して福島大学の渡邊明教授が「気候が変わる」という本を出版されている。温暖化はどこでも平均的に暖くなるのではなく、たとえば南会津地域では1941年から2000年までの間、年平均0.01～0.02℃平均気温が低下しているとのこと。その分どこかでは平均以上に高温になっているのだろう。また月ごとには平均的に上昇しているわけではなく、冬期間と9月の気温が高く、7月の気温はほとんど上昇していないとの統計がある。温暖化はどこでも同じと思ってしまいがちだが自分の目で情報を確認し対応することが大切なのだろう。

地球温暖化問題は目に見えにくいだけに実感が薄い。しかし確実にやってくることは間違いないようである。100年後の子孫に非難されないようにしっかりしなければと思う。

(農業普及部長 五十嵐 竹男)

農林事務所からお知らせ

造林補助制度を活用して 森林整備を進めましょう!!

現在、福島県では、「京都議定書」に基づく地球温暖化防止対策の一環として、造林補助制度を活用した森林整備の推進を図っています。造林補助制度は、森林所有者が行った間伐等の森林整備(他者へ委託する場合も含む)に対して県が補助金を交付する制度で、計画的に行った森林整備の場合は更に高率の補助を受けることが可能となっています。

森林所有者の皆さん、是非この機会に造林補助制度を活用して森林整備を行って、地球温暖化防止のための一役を担ってみませんか。なお、補助申請手続き等に関する詳細については、最寄りの森林組合までお問い合わせください。



手入れの行き届いた森林



お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



ふくしま食と農の絆づくり運動

みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています



この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。